



# REvision2018 の見どころ

公益財団法人 自然エネルギー財団は、2018年3月7日（水）に国際シンポジウム REvision2018 を「自然エネルギー大量導入が世界を変える」をテーマに、内幸町・イイノホールにて開催いたします。

太陽光や風力発電は、すでに世界の多くの国や地域で火力や原子力発電より安価なエネルギー源になっています。大量の導入が進む中で、脱炭素をめざす新たなビジネスを生み出し、電力会社のありかたを変えています。

今回の REvision2018 では、国際再生可能エネルギー機関などからのエネルギー専門家だけでなく、世界のエネルギービジネスの最前線で活躍する電力会社や企業から多くのスピーカーをお招きします。さらに世界の変化を受け、日本からどのような新たなエネルギービジネスを展開するかも考えます。

## 基調講演：

世界銀行グループは、2013年にエネルギー部門向け融資ガイドラインで、石炭火力建設の金融支援を原則行わない方針を発表、昨年末には、2019年以降、上流の石油とガスの融資停止を発表しました。また、2018年以降エネルギー関連支援事業からの温室効果ガス排出量の開示を約束しています。一方で、世界各地の再生可能エネルギー開発を支援、さまざまなプロジェクトを後押ししています。脱炭素のビジネスと国際支援について、大きく変わる世界のエネルギー転換をご紹介します。

## セッション1：加速する世界の自然エネルギー拡大

昨年、太陽光発電は73GW、風力発電も50GW以上の導入があったとみられています。拡大を後押しする自然エネルギーのコスト低下は、ビジネス環境の良い地域では、キロワットアワーあたり、1セント台の太陽光・風力を生み出しています。世界規模で拡大する自然エネルギーと加速するコスト低下について、国際再生可能エネルギー機関が最新スタディを紹介します。また、自然エネルギーの驀進力となっている中国の状況についての報告、とともに、欧州の大手電力会社ながら世界各地に自然エネルギー投資を行う ENEL や洋上風力の拡大について世界風力エネルギー会議、新しいエネルギーアクターとして日本から世界の自然エネルギー開発を行うソフトバンク、が登壇します。

## セッション2：変動型自然エネルギーがもたらす電力ビジネスの変革

拡大する変動型の自然エネルギーは、世界のエネルギー転換を加速し、電力事業のみならず、経済のあり方も変えています。化石燃料の公社（ガス・ドゥ・フランス）でありながら、自然エネルギーの事業拡大を行い、セッション1にも登壇する ENEL とともに欧州でもっとも面白いチャレンジを行っているといわれる Engie、他国とあまり系統連系されていないスペインで変動型自然エネルギーの高い導入率を達成し、海外にも自然エネルギー投資を行うイベルドローラ、欧州でもっとも成功した送電事業者の一つである Elia から国際送電プロジェクトを行う NemoLink が登壇します。また、グーグルやアマゾンなど大規模消費者の自然エネルギー購入100%の動きの中で米国の電力会社がどう対応してきたのか、ロッキーマウンテン研究所から紹介します。

## セッション3：太陽と風力を日本のグリッドに

自然エネルギー拡大の波は日本にも押し寄せ、現行の2030年のエネルギー基本計画での自然エネルギーの目標値は、前倒しで達成されることが確実視されています。一方で、日本の自然エネルギーのコスト高はまだまだ続いています。低速風況にも対応できる風力発電の拡大に取り組む GE リニューアブルエナジー、日本のみならず世界的にも電気自動車の先駆けである日産、自然エネルギーを100%購入する企業宣言を日本で初めて行ったリコー、太陽光発電の市場分析では日本でもっとも詳しい資源総合システム、自然エネルギー政策を司る経済産業省が、これからの日本の自然エネルギー導入について議論します。